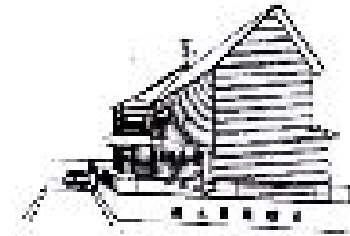


<今朝の礼拝から> 私の声が FEBC から流れたことがありました。また読んで頂きましたが、ライフラインの機関誌に書く機会もありました。そのような事を思い出して、少し考えてみたいと思います。みなさんは(別に言葉足らずだったわけでもないのに)とんでもない誤解をされて聞かれてしまった、という経験がないでしょうか。時には大きな傷跡になってしまったこともありそうです。また“これだけは話そう”と思ってイザとばかりに話し始めたものの、半分も相手の理解を得ることができなかったということはないでしょうか。何故こんなことを書きだすかと言いますと、今朝の御言葉に関して、“私が語る”ということ考えたからです。“共に開く”とか“御言葉の取り次ぎ”と言おうと何と言おうと“語る”のです。後から自分の説教をテープで聞いてみるのは、勇気のいることです。嫌というほどの欠点があることに気がきます。おまけに今朝の聖書箇所は、“ペンテコステの出来事”が記録されている、教会の原点となるところになります。このことを語り、それが、いろいろな条件を抱えた人に受け取られるのです。初めての方がおいででしたら、今日聞かれた事が“ペンテコステの理解”になりかねないのです。“十分に語ろう”等と、長々話してとんでもない失敗をしてしまったこともあります。さて、私たちの教会学校(ユース礼拝)では7名の奉仕者がメッセージを行います。昔はありましたが“これはダメ”というものが殆んどないのです。それどころか主日のメッセージに、そっと加えてしまうことがあります。聖書を一ヶ所開きましょう。“何を言おうかと、前もって心配するな。その場合、自分に示されることを語るがよい。語る者はあなたがた自身ではなくて、聖霊である(マルコ 13:11)”とあります。子供の育児をマスターしてから子育てを始める人はいません。“懸命に求めて”行うだけでしょ。私たちが信仰について語る時も同じのようです。今朝の2:4に“一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した”とあります。神様の言葉に聞き語りなさいと、今も働かれる聖霊は私たちに“語れ”と仰っているのです。私の言葉ではないのです、神の言葉です。“神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と憤みとの霊なのである(テモテ 1:7)” (村上)

週報

2010年 5月 23日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042